

## 系統豚清浄化維持試験

坂 代江, 丸山 健, 宮部 工

Cleanliness and Maintenance of Pig Strain[ROSE W-2]

Norie SAKA, Takeshi MARUYAMA, Takumi MIYABE

### 要 約

「ローズW-1」の後継系統として平成15年3月に造成が完了し、同年7月に認定された大ヨークシャー種系統豚「ローズW-2」を清浄状態で維持し、繁殖成績、育成成績、産肉成績、育成豚の主要形質の成績、維持集団の遺伝的構成及び衛生状態等を調査した。その結果、産子数は少なかったものの、繁殖成績全般に前年度より改善が見られた。集団の遺伝的構成は、平均血縁係数、平均近交係数ともに大きな変動は見られなかったが、維持開始当初、系統認定豚の約半数を茨城県系統豚供給センターへ移管したため、遺伝的寄与率変動係数はやや高値を示した。

キーワード 系統豚, 大ヨークシャー, 維持

### 緒 言

平成8年度から開始した大ヨークシャー種の系統造成が平成14年度に完了し、平成15年度に系統豚「ローズW-2」として認定された。本試験では、この優良な系統豚を、本県の銘柄豚肉「ローズポーク」及び高品質豚肉生産の基礎豚として長期間に渡り安定して利用することを目的とし、認定時の能力を保持しながら近交係数の上昇を抑えるようにして維持・増殖を行っている。

### 材料及び方法

「ローズW-2」を維持施設内で通年分娩させ、繁殖・育成成績、産肉成績及び育成豚の主要形質の成績、集団の遺伝構成などを調査した。また、更新に用いない育成豚は県内農家へ払い下げた。

### 結 果

- 1 維持状況  
平成17年3月31日現在、当所維持施設内で飼養している種豚は、雄8頭、雌31頭であった。
- 2 育成豚の払い下げ  
本年度、試験除外豚を県内養豚農家8戸に28頭（雄9頭、雌19頭）の払い下げを実施した。
- 3 繁殖成績  
分娩腹数、1腹平均生産子数、1腹平均3週目頭

数、離乳時育成率、生時体重、3週齢体重の繁殖成績を表1に示した。

#### 4 産肉成績

1日平均増体重(DG)、背脂肪(BF)、ローズ断面積(EM)の産肉成績を表2に示した。

#### 5 体尺測定値

105kg時の体長、胸囲、体高、十字部高、胸深、前幅、胸幅、後幅、前管囲、後管囲の体尺成績を表3に示した。

#### 6 集団の遺伝的構成(図1, 図2)

平均血縁係数、平均近交係数および遺伝的寄与率変動係数の変化を図1と図2に示した。

### 考 察

一腹あたりの生産子数は、8.96頭とやや少なかったが、前年度と比較して、全般的に繁殖成績の改善がみられた。

産肉成績については、昨年度はDGとBFの値が下がったが、今年度で回復してきた。EMについては年々大きくなってきている。産肉成績が昨年度で下がった要因としては、維持開始と同時に造成途中に飼養していた豚舎から認定豚を移動させたことによる豚舎等飼養環境の変化が考えられるが、維持2年目の今年度は馴化が進み成績が回復してきた可能性がある。

105kg時点の体尺結果は、雌雄ともに胸囲と管囲が大きくなった。

遺伝構成では近交係数、血縁係数共に大きな変

動はなかったものの遺伝的寄与率変動係数については、維持開始2年目にしては若干高い値が出ている。これは、維持開始当初、系統認定豚の約半数を茨城県系統豚供給センターへ移管してスタートしたことによる影響ではあるが、今後は交配及び選抜を慎重に行った上で、この値の上昇をできる限り抑えなければならない。また、良い種豚をなるべく長く使用できるよう飼養管理にも配慮する必要がある。

引用文献

- 1) 前田ら(2003)茨城県畜産センター研究報告, 35: 183-191
- 2) 大石ら(2004)茨城県畜産センター研究報告, 36: 207-208

表 1 繁殖成績

	分娩腹数	平均生産子 数/腹	平均3週目 頭数/腹	育成率 (%)	生時体重 (kg)	3週齢体重 (kg)
平成14年度 (造成最終年度)	45	9.02 ±0.25	8.49 ±2.06	93.6	1.2 ±0.25	4.99 ±1.10
平成15年度	54	8.02 ±1.88	7.69 ±2.01	95.8	1.25 ±0.27	5.22 ±1.06
平成16年度	23	8.96 ±2.06	8.39 ±2.33	93.7	1.39 ±0.75	5.57 ±1.44

表 2 産肉成績

		DG(kg)	BF(cm)	EM(cm <sup>2</sup> )	
平成14年度 (造成最終年度)	雄	912.7 ±110.5	1.4 ±0.3	38.8 ±2.2	検定成績
	雌	848.0 ±115.8	1.4 ±0.2	39.7 ±3.8	
平成15年度	雄	801.7 ±96.1	1.1 ±0.2	42.3 ±3.9	現場検定 成績
	雌	697.2 ±115.4	1.3 ±0.2	41.3 ±3.8	
平成16年度	雄	849.6 ±120.1	1.6 ±0.2	42.6 ±3.2	現場検定 成績
	雌	769.9 ±119.6	1.5 ±0.3	41.7 ±6.7	

表 3 体尺測定値 (105kg 時点)

(単位: cm)

		体長	胸囲	体高	十字部高	胸深
平成14年度	雌	107.5	108.5	64.5	68.0	35.2
	雄	107.1	108.0	65.0	69.0	35.2
平成15年度	雌	112.5	109.7	66.3	69.0	36.6
	雄	107.1	100.8	65.6	69.6	35.8
平成16年度	雌	110.4	112.9	65.4	68.7	38.5
	雄	111.3	110.8	65.9	69.3	36.0
		前幅	胸幅	後幅	前管囲	後管囲
平成14年度	雌	34.4	30.7	33.2	19.2	19.4
	雄	34.1	31.0	34.1	18.8	19.4
平成15年度	雌	35.6	33.2	34.6	19.7	20.2
	雄	33.8	30.3	33.3	18.5	18.3
平成16年度	雌	34.9	31.4	34.8	18.0	18.6
	雄	37.1	32.8	35.6	20.3	20.3

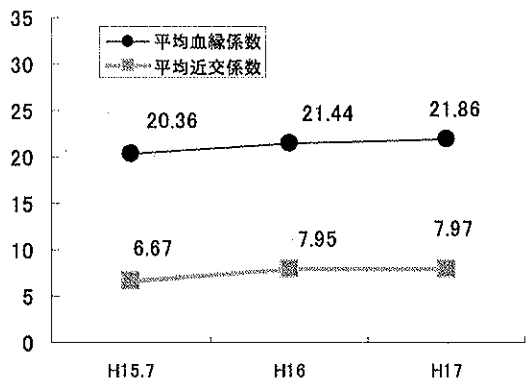


図1 平均血縁係数・平均近交係数の変化

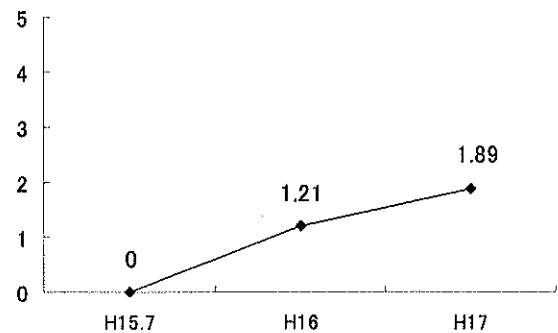


図2 遺伝的寄与率変動係数の変化